

異文化接触と親の教育方針がエスニック・アイデンティティ及び自尊心に与える影響－日本人学生と中国人留学生の場合－

一二三 朋 子

問題と目的

問題の背景

近年の日本人の海外進出及び海外から日本への外国人の流入という人間の国際的移動の増大と、科学技術や情報産業の高度な発達に伴い、日本人の異文化接触の機会も多様な形で急増し、そうした状況が日本人のアイデンティティを考えることを要請しているように思われる（新井，1995）。原（1995）は、異文化接触がアイデンティティに及ぼす影響とその研究課題について、異文化接触の状況は、良くも悪くもアイデンティティを意識せざるを得なくなる状況であるとしている。特に、平穏な日本社会の中でゆっくり作り上げられた自己アイデンティティを保持している日本人青年のアイデンティティにとって、異文化接触は自らのアイデンティティを考えざるを得なくなる数少ない機会となることを指摘し、異文化接触によって日本人のアイデンティティが変わるのかどうか、変わるとすればどのように変わるのか、そもそも日本人のアイデンティティは他の文化圏や民族に属する人々と本当に違うのかなどに関する実証的研究の必要性を論じている。

また新井（1995）は、アイデンティティは自分にとっての異文化に接触することによって変わるだけではないことを指摘している。つまり、自分にとって異文化に属する人が自分の文化が異文化であることを指摘することによって、自分の文化について自覚する場合があるという。自分の異文化接触だけではなく他者の異文化接触到に触発されることによるアイデンティティの変更である。例えば日常生活の中で、身近な外国人への日本文化の紹介や生活習慣の説明を通して、或いは誤解やトラブルを通じて、異文化の人たちと日本人との考え方や価値観の違いに直面し、それまでは意識したことのない「日本人」ということを意識化することも珍しいことではない。外国人との身近な接触体験が日本人のアイデンティティ形成にどのような影響を与え、変化をもたらすのか。

日本に流入する外国人の増加と日本人のアイデンティティとの関係を考える必要があるにもかかわらず、日本人の異文化接触とアイデンティティの関係の問題にする視点は希薄であった（新井，1995）。日本人の現在のアイデンティティの特徴を捉え、日本人としてのアイデンティティが異文化接触によりどのように変化するのか、それが日本人にとってどのような意味を持つのかを理解することは、日本の多国籍化の進行が予想される中で、重要な意味を持つと思われる。

一方、日本の多国籍化において、留学生の急増に伴う留学生の異文化適応も無視できない問題である。日本社会への態度・関係の取り方と自文化へのアイデンティティの維持の両者についてどのようにバランスを保つかは、身体的・精神的健康に関わる問題であるという研究結果が報告されている（井上・伊藤，1995）。日本の文化を受け入れるという課題と、自文化に根ざしたアイデンティティを構築するという課題の2つに、どのように取り組み、乗り越えるのか。留学生のエスニック・アイデンティティは留学中にどのような要因でどのように変化するのか。こうした問題を検証することは、日本の留学生受け入れ体制を整える上でも重要な問題といえよう。

そこで本研究では、日本人学生の日本人としてのアイデンティティ及び日本における留学生の60%以上を占める中国人留学生の中国人としてのアイデンティティをエスニック・アイデンティティの側面から捉え考察することを目的とする。

エスニック・アイデンティティの定義 エスニック・アイデンティティは自己アイデンティティを構成する一側面であり、一般的に社会的アイデンティティとして定義付けられている。Tajfel（1981）はエスニック・アイデンティティを、ある社会的集団成員としての知識から引き出される自己概念の一部であり、成員意識に付随する価値観や情緒的意味づけを伴うものと定義している。ある社会的集団として依拠する枠組みは、国籍や民族・人種などの血統や出自に関するものや、宗教・言語・伝統行事や風俗習慣などの文化的側面・歴史的側面などさまざまである。個人は同時に複数の社会的集団に所属するが、どの側面に重点を置くかは個人の選択による。そして、選択した集団に準拠した規範や価値観を受容し、集団への帰属感や愛着心を養い、集団への興味を深め、集団としての行動に積極的に関与していく中で、エスニック・アイデンティティは発達していくと考えられる。以上のようにエスニック・アイデンティティは、価値観・帰属感・興味・関与の仕方・達成の程度などの様々な要素に表象

されるが、エスニック・アイデンティティのどの要素に着目するかは研究者により異なっている (Phinney, 1990)。

本研究では日本にいる日本人学生及び中国人留学生について、自国の言語、文化、伝統などへの帰属感や愛着心、関与の程度を、エスニック・アイデンティティの構成要素として取り上げる。

ところで、エスニック・アイデンティティ研究の主要な関心事は、自己概念の一部としてのエスニック・アイデンティティが幸福感や自尊心・適応感にどのような影響を与えるのかという疑問であった。エスニック・アイデンティティの発達段階と自尊心との関連について、Parham & Helms (1985) は黒人大学生を対象にエスニック・アイデンティティ態度尺度を使用し、「出会い前」及び「モラトリアム」と低い自己実現・劣等感・不安との関連を指摘している。Phinney & Alipuria (1990) は少数派グループ (アジア系アメリカ人, 黒人, メキシコ系アメリカ人) と白人の大学生を対象に、少数派グループにとってエスニック・アイデンティティ発達段階における「探索・関与」と自尊心とは関連するが、白人にとってはエスニック・アイデンティティの発達段階と自尊心との間に関連性が見られなかったことを報告している。一方、Grossman, Wirt & Davids (1985) はアングロ系アメリカ人とメキシコ系アメリカ人とを対象に、自民族に関する意識をSD法で調べ、民族に対する肯定的意識及び高い社会経済的地位が高い自尊心に関係があるとしている。自民族に対する主流派集団との関わりと自尊心との関連については、Eyou, Adair & Dixon (2000) が中国系移民を対象に、主流派集団と自民族集団との統合的立場を取る者は、どちらにも同一化しない周辺の立場や主流派集団への同化的立場を取る者よりも自尊心が高いとしている。これらの研究から、エスニック・アイデンティティと自尊心との関係には、エスニック・アイデンティティの発達段階、その集団の社会的地位、自分と自民族集団及び主流派集団との距離の取り方が関わっていることが示唆される。

また、Phinney, Romero, Nava & Huang (2001) はアルメニア系・ベトナム系・メキシコ系の各移民の親子を対象に、母語の習熟度・自民族との友人関係・親の教育の3つがエスニック・アイデンティティに影響を与えること、Lomborn & Felbab (2003) はアフリカ系アメリカ人青年を対象に、子どもの社会化のために民族的誇りを強化する親の教育スタイルは子どものエスニック・アイデンティティの強さを予測させるものであることを報告している。これらの研究は、エスニック・アイデンティティの形成には生活環境が影響を与

え、特に親の教育の影響が強いことを示唆するものである。

以上の先行研究から導出される問題として本研究では、日本人学生に対してはエスニック・アイデンティティの構成要素と親の教育方針の影響及び自尊心との関連、中国人留学生の場合は日本人との関係の取り方を介在させて、諸要因とエスニック・アイデンティティ及び自尊心との関連を明らかにしたい。

Phinney (1992) は、それまでのエスニック・アイデンティティ研究の問題点として、研究者によってエスニック・アイデンティティの中で着目する構成要素が異なること、エスニック・アイデンティティを測定する尺度が特定の民族に固有の側面を測る尺度であるために汎用性がなく、他民族への適用や、そこから引き出される研究結果の比較・一般化が困難であることを指摘した上で、エスニック・アイデンティティを多面的に測定する MEIM (The Multigroup Ethnic Identity Measure) を考案している。MEIM は20項目から成り、エスニック・アイデンティティを測る14項目と他民族への志向性を測る6項目とに大別される。エスニック・アイデンティティを測る項目の下位尺度は「自民族への肯定的態度・帰属感 (私は自分の民族集団の成員であることに幸せを感じる、など)」5項目、「エスニック・アイデンティティへの積極的関与 (私は自分の民族的背景と、その背景を持つ意味を明瞭に理解している、など)」7項目、「民族的行動 (私は大部分の構成員が自民族の成員から成る組織や社会的集団に積極的に参加する、など)」2項目から構成されている。質問項目の記述は普遍性を備えており、合計得点はエスニック・アイデンティティの発達段階を示す指標としても使用可能である (Martinez & Dukes, 1997)。

MEIM を使用した研究は多く、思春期の黒人と白人を対象にエスニック・アイデンティティ・自尊心・適応との関係を調べ、エスニック・アイデンティティが強い者は自尊心も高いこと (DuBois, Burk-Braxton, Swenson, Tevendale & Hardesty, 2002)、中国系アメリカ人を対象に、エスニック・アイデンティティの強い者は民族としての自覚と幸福感とに強い関係が見られるが、エスニック・アイデンティティの弱い者は、民族としての自覚と幸福感との関係が弱いこと (Yip & Fuligni, 2002)、トルコ系とモロッコ系の青少年を対象に、自民族への同一化と家族の団結の強い者は自尊心も高いこと (Verkuyten, 2003) などが報告されている。これらの研究は、エスニック・アイデンティティの強い者は自尊心や幸福感も高いことと同時に、MEIM がエスニック・アイデンティティを測る尺度として汎用性を持つことをも示すものといえよう。

そこで本研究でもエスニック・アイデンティティを測定する尺度として

MEIMを使用する。MEIMを使用したこれまでの研究の場は主としてアメリカやオランダなどの欧米圏であるが、被験者はアジア系、ヨーロッパ系など様々な民族に適用されている。本研究の場は日本であり、被験者は日本人学生と中国人留学生であるが、MEIMの項目は汎用性が高く、本研究での被験者に適用しても支障はないと判断した。また、MEIMを使用することで先行研究との比較が可能になり、日本人のエスニック・アイデンティティが他の文化圏や民族と違うのか否かという原（1995）の問題提起に1つの答えが得られるものとする。

尚、先行研究ではエスニック・アイデンティティに影響を与える要因の研究や、エスニック・アイデンティティと幸福感・適応感との関連の研究は多く見られるものの、自分のエスニック・アイデンティティが、その保持や継承にどのような影響を与えるかの研究はあまり見当たらない。多国籍化が進む中、日本人だけでなく定住外国人とその子弟にとってもエスニック・アイデンティティの保持・継承の問題はますます複雑化していくと考えられる。エスニック・アイデンティティがどのように次世代に継承されるのかを検討することは、エスニック・アイデンティティに関わる問題解明にとって有意義なことと思われる。また、留学生の場合は異国の地でいかに自分のエスニック・アイデンティティを保持するかが問題となる。そこで本研究では先述の諸課題に加えて、エスニック・アイデンティティがエスニック・アイデンティティの保持・継承にどのような影響を与えるかを検討する。

目的

ここで本研究の目的を整理する。多国籍化の進む日本社会の中で、日本人学生及び中国人留学生を対象に、エスニック・アイデンティティの特徴を把握することであり、次の2点を検討する。第1に、日本人学生及び中国人留学生それぞれにMEIMを用いてエスニック・アイデンティティの構成要素及び構成要素間の関係を明らかにする。第2に、エスニック・アイデンティティとエスニック・アイデンティティに影響を与えると思われる諸要因・自尊心・エスニック・アイデンティティの保持及び継承との関係を因果モデルに表わし、その妥当性を共分散構造分析によって検証する。

因果モデル

(1) 日本人学生

日本人学生のエスニック・アイデンティティに影響を与える要因として「親の教育方針」「自民族に関わる経験」を仮定する。先述のように、エスニック・アイデンティティは生活環境の影響を受けやすく、特に親の教育の影響が強いことが先行研究で明らかにされている (Phinney, et al. 2001; Lomborn & Felbab, 2003)。親が日本の伝統を大切にすることを奨励したか否か、正しい日本語を使うように注意したか否かといった教育方針は、日本人としてのエスニック・アイデンティティに直接に影響を与えるであろう。また日本における日本人の場合、異文化の人との接触により自分の民族を意識化することがアイデンティティに影響を与える可能性が考えられる (新井, 1995)。例えば、日本の文化や習慣を外国人に紹介するなどの経験を通して自分が日本人であることを強く意識し、その結果エスニック・アイデンティティが強められ、さらには自尊心やエスニック・アイデンティティの保持・継承が強化されることが推測される。

(2) 中国人留学生

中国人留学生のエスニック・アイデンティティに影響を与える要因として「親の教育方針」「自民族に関わる経験」「日本人との関係」を仮定する。親から自民族の歴史を聞かされたり自民族の伝統や習慣を守るように教育されることはエスニック・アイデンティティの形成に強い影響を与えるであろう。またエスニック・アイデンティティには民族に関わる経験が影響を与えることが予想される。山崎・平・中村・横山 (1997) はアジア系留学生に関する調査で、自民族に関わる経験が日本人による関心・好意の認知に影響を与え、さらには対日態度に影響を与えることを報告している。また先にも触れたが (Eyou, et al. 2000)、社会的に少数派である民族集団の場合、主流派集団との関係の取り方がエスニック・アイデンティティにも深く関わることが指摘されている。以上のことから、民族に関わる経験は日本人が自民族をどのように評価しているかの認知や日本人との距離の取り方に作用し、その結果中国人としてのエスニック・アイデンティティにも影響を与えることが推測される。例えば中国人であることで良い思いをした経験は、日本人の中国への評価が高いという認知を強め、日本人への歩み寄りが強化され、結果としてエスニック・アイデンティ

ティは弱められ、その保持・継承及び自尊心に負の影響を与えることが推測される。

以上の関係を因果モデルで表わしたものが FIGURE 1・FIGURE 2 である。

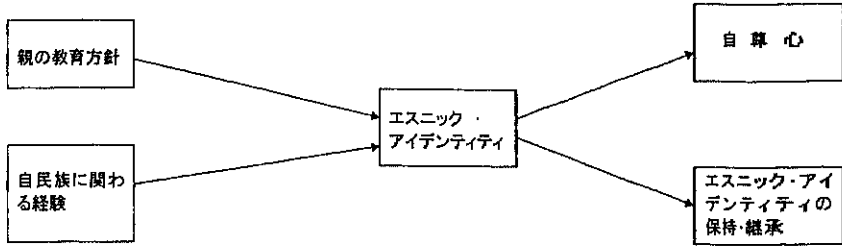


FIGURE 1 エスニック・アイデンティティの因果モデル（日本人学生）

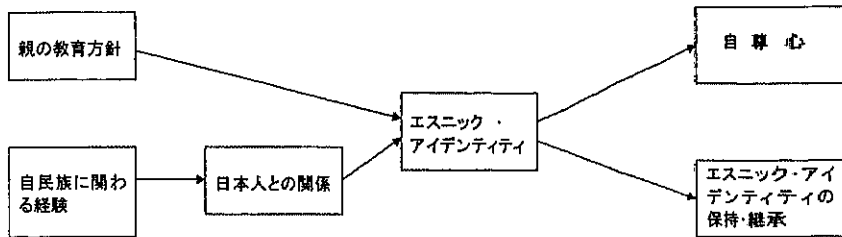


FIGURE 2 エスニック・アイデンティティの因果モデル（中国人留学生）

方法

被調査者 日本国内の大学（茨城県1校，東京都1校）に在籍する日本人学生153名（男性49名，女性103名，不明1名，平均年齢19.0歳）と中国人留学生98名（男性41名，女性56名，不明1名，平均年齢23.3歳，平均滞日年数2年0ヶ月）を対象とした。尚，本研究で分析の対象とした中国人留学生は全て，中国人の90%以上を占める漢民族である。

質問紙の構成 本稿で分析に使用した質問紙は次の通りである。

(1) 日本人学生

1) 親の教育方針 6項目

- 2) 自民族に関わる経験 8項目
- 3) エスニック・アイデンティティ 7項目
- 4) 自尊心 10項目
- 5) エスニック・アイデンティティの保持・継承 5項目

1) は親の母文化保持教育の状況を調べた Phinney, et al.(2001) と、在日朝鮮人青年の家庭内における民族的要素保持を調べた平・川本・慎・中村(1995)を参考にした。2) はアジア系留学生・就学生が日本でどのような自民族に関わる経験をしているかを問うた山崎(1994), 山崎他(1997)で用いられている質問項目を参考にして日本人向けに書き換えた。3) については MEIM のうちのエスニック・アイデンティティを測定する14項目全てを用いるのではなく Martinez & Dukes(1977)に倣い7項目を選択した。Martinez & Dukes は MEIM の「自民族への肯定的態度・帰属感」に関する5項目から4項目と「エスニック・アイデンティティへの積極的関与」に関する7項目から3項目を用いてエスニック・アイデンティティを測定し、自尊心との関係を調べている。除外された項目は選択された項目を反転させた内容にほぼ等しく、被調査者の負担を減らすためにも Martinez & Dukes の選択した7項目で十分にエスニック・アイデンティティを測定できると判断した。4) は山本・松井・山成(1982)の作成した自尊感情尺度を使用した。5) は在日朝鮮人青年の将来の民族的志向性を調べている平他(1995)を参考にした。回答方式は全て5段階評定である。

(2) 中国人留学生用質問紙

- 1) 親の教育方針 6項目
- 2) 自民族に関わる経験 9項目
- 3) 日本人との関係 9項目
- 4) エスニック・アイデンティティ 7項目
- 5) 自尊心 10項目
- 6) エスニック・アイデンティティの保持・継承 5項目

中国人留学生用質問紙のうち1), 2), 4), 5), 6) は日本人学生用とほぼ同内容であるが、中国人留学生に合わせて記述を変えてある。また、中国人留学生用には3)を加えた。3)の日本人との関係の取り方とは、中国人・中国文化に対する日本人の評価への認知と、日本人・日本文化への志向性を問うものである。山崎他(1997)の日本人による自民族への関心・好意の認知尺度

の7項目の中から4項目、MEIMの他民族への志向性を測る6項目の中から他民族の人との交流を志向する3項目を選択した。また、MEIMの他民族への志向性に関する質問項目には他民族の文化や習慣への興味・関心の程度を問う内容が含まれていないので、本研究では日本の文化や習慣への興味・関心を問う2項目を独自に作成追加した。回答は全て5段階で評定を求めた。尚、質問紙は日本語に堪能な中国語母語話者2名によるバックトランスレーションによって中国語に翻訳したものをを用いた。

調査時期・手続き 質問紙の配布・回収は2004年1月から5月まで、調査者自身が行った。

分析 まず、質問紙結果を因子分析し、因果モデルにおける「親の教育方針」「自民族に関わる経験」「日本人との関係」「エスニック・アイデンティティ」「自尊心」「エスニック・アイデンティティの保持・継承」の構成要因を検討する。次に、得られた因子の中から因子負荷量の高い項目を観測変数として、因果モデルの妥当性を共分散構造分析により検証する。

結果と考察

エスニック・アイデンティティの構造

日本人学生及び中国人留学生のエスニック・アイデンティティの構成要素を検証するために、質問紙中のエスニック・アイデンティティを測る7項目にそれぞれ因子分析（主因子法、バリマックス回転）を施した。その結果、それぞれ2因子が抽出された（TABLE 3, TABLE 9）。各因子を構成する項目について日本人学生と中国人学生とは共通しており、第1因子は自民族への帰属意識や肯定的感情を表す自民族への「帰属感・愛着」、第2因子は自分のエスニック・アイデンティティへの探索や自問自答を表すエスニック・アイデンティティへの「積極的関与」と解釈した。このことから、日本人学生も中国人留学生もエスニック・アイデンティティの構造は共通しており、PhinneyがMEIM作成に当たり提示した構造とも共通していることが示された。即ち、日本人学生のエスニック・アイデンティティの構造は他の民族と基本的に同じ構造であるといえる。

両構成概念間には、日本人学生 ($r=.414, p<.001$)、中国人留学生 ($r=.534, p<.001$) 共に中程度の相関が見られた。自分のエスニック・アイデンティティについて深く考えたりその意味を明確に意識している者は自民族への帰属感も

強く、両者は統合的にエスニック・アイデンティティを構成することが推察される。

以上の結果は、日本人のアイデンティティは他の文化圏や民族に属する人々と違うのかという原（1995）の問題提起に1つの答を示すものといえよう。

因果モデルの共分散構造分析による検討

各構成概念 因果モデルの検討に用いる構成概念の観測変数には、因子分析で因子負荷量が高く、かつ影響指標の高いものを用いた（TABLE 1～TABLE 11）。日本人学生及び中国人留学生の因果モデルに用いた各観測変数は以下のとおりである。

(1) 日本人学生

「親の教育方針」に関しては、第1因子の4項目を「親の継承教育」の構成概念として用いた（TABLE 1）。「自民族に関わる経験」に関しては、第1因子を「肯定的経験」、第2因子を「否定的経験」と命名して各3項目を用いた（TABLE 2）。「エスニック・アイデンティティ」に関しては、第1因子を「帰属感・愛着」と命名して4項目、第2因子を「積極的関与」と命名して2項目を用いた（TABLE 3）。「自尊心」に関しては第1因子を「肯定的自尊心」として3項目を用いた（TABLE 4）。「エスニック・アイデンティティの保持・継承」に関しては、第1因子を「出自の継承」と命名して3項目、第2因子を「伝統の保持」と命名して2項目を用いた（TABLE 5）。

TABLE 1 因子分析結果 - 親の教育方針 - (日本人学生)

項目	因子1	因子2
【親の継承教育】		
x1 あなたの親は家族の歴史(先祖・家系など)について熱心に話してくれた	.687	.131
x2 あなたの親は日本の歴史を熱心に教えてくれた	.650	.164
x3 あなたの親はあなたが日本の文化を守ることに熱心だった	.610	.172
x4 あなたの親はあなたの日本語教育に熱心だった	.531	.328
【親の外国志向教育】		
あなたの親はあなたの外国語教育に熱心だった	.136	.889
あなたの親はあなたが外国の伝統や習慣を学習することに熱心だった	.256	.601

TABLE 2 因子分析結果 - 自民族に関わる経験 - (日本人学生)

項目	因子1	因子2
【肯定的経験】		
x5 日本の文化について外国人と楽しく話す	.828	.195
x6 日本料理を外国人においしいといわれる	.774	.373
x7 困っているとき外国人に親切にされる	.741	.084
日本の着物を外国人にほめられる	.682	.457
【否定的経験】		
x8 日本人であるために外国人に何らかの差別をされる	.291	.689
x9 日本人であるために外国人にいじわるをされる	.059	.615
x10 日本のことを外国人にばかにされる	.280	.582
日本の名前を外国人にからかわれる	.078	.442

TABLE 3 因子分析結果 - エスニック・アイデンティティ - (日本人学生)

項目	因子1	因子2
【帰属感・愛着】		
x11 日本の文化や伝統に誇りを持っている	.872	.207
x12 日本の文化や伝統が好きである	.805	.140
x13 自分が日本人であることを強く感じている	.549	.281
x14 日本人であることに幸せを感じる	.497	.191
【積極的関与】		
x15 日本人であることが自分の人生にどんな影響を与えるか深く考える	.073	.914
x16 自分が日本人であることが自分の人生にどんな意味を持つか、はっきりわかっている	.325	.600
日本の歴史や伝統・習慣について知るために、たくさん時間を使っている	.323	.417

TABLE 4 因子分析結果 - 自尊心 - (日本人学生)

項目	因子1	因子2	因子3
【肯定的自尊心】			
x17 いろいろなよい素質を持っている	.840	-.125	.084
x18 少なくとも他の人と同じくらいには価値のある人間である	.742	-.208	.136
x19 自慢できるところがあまりない	.566	.382	-.052
物事を人とおなじくらいにはうまくやれる	.512	-.177	-.092
【否定的自尊心】			
全くだめな人間だと思ふことがある	-.237	.840	-.246
敗北者だと思ふことがよくある	-.216	.658	-.176
いつも自分は役に立たない人間だと思ふ	-.530	.569	.002
【自己充足感】			
自分はこれでいいと思ふ	.140	-.031	.989
自分に満足している	.151	-.198	.759
もっと自分自身を尊敬できるようにになりたい	.200	.146	.285

TABLE 5 因子分析結果 - エスニック・アイデンティティの保持・継承 - (日本人学生)

項目	因子1	因子2
【出自の継承】		
x20 子どもには日本人的な名前をつけたい(子どもの命名)	.621	.216
x21 日本国籍がよい(国籍)	.614	-.093
x22 結婚相手は日本人がよい(結婚相手)	.545	-.102
【伝統の保持】		
x23 日本の年中行事や文化慣習を守り継承したい(伝統行事の保持)	.054	.431
x24 普段の食事は和食中心である(食事)	-.062	.320

(2) 中国人留学生

「親の教育方針」に関しては、第1因子の3項目を「親の継承教育」の構成概念として用いた (TABLE 6)。「自民族に関わる経験」に関しては、第1因子を「否定的経験」と命名して3項目、第2因子を「肯定的経験」と命名して2項目を用いた (TABLE 7)。「日本人との関係」に関しては、第1因子を「日本人評価認知」、第2因子を「日本志向」と命名して各3項目を用いた (TABLE 8)。「エスニック・アイデンティティ」に関しては、第1因子を「帰属感・愛着」と命名して3項目、第2因子を「積極的関与」と命名して2項目を用いた (TABLE 9)。「自尊心」に関しては、第3因子の3項目を「肯定的自尊心」の構成概念とした (TABLE 10)。「エスニック・アイデンティティの保持・継承」に関しては、第1因子を「伝統の保持」、第2因子を「出自の継承」と命名して各2項目を用いた (TABLE 11)。

TABLE 6 因子分析結果 - 親の教育方針 - (中国人留学生)

項目	因子1	因子2
【親の継承教育】		
x1 あなたの親はあなたが中国の文化を守ることに熱心だった	.762	.176
x2 あなたの親はあなたが中国語教育に熱心だった	.683	.127
x3 あなたの親は中国の歴史について熱心に教えてくれた	.391	.291
【親の日本志向教育】		
あなたの親はあなたの日本語教育に熱心だった	.085	.795
あなたの親はあなたが日本の習慣を学習することに熱心だった	.379	.619

TABLE 7 因子分析結果 - 自民族に関わる経験 - (中国人留学生)

項目	因子1	因子2
【否定的経験】		
x4 中国のことを日本人にばかりにされる	.679	.289
x5 中国語を話していてジロジロ見られる	.656	.047
x6 外国人であるためにアパートを借りるのを断られる	.545	.136
外国人であるためにいじわるされる	.479	.160
【肯定的経験】		
x7 中国の文化について日本人と楽しく話す	-.253	.611
中国の民族衣装をほめられる	.130	.547
x8 中国料理を日本人においしいといわれる	.238	.481
困っているとき日本人が親切にしてくれる	.307	.402
中国の名前をからかわれる	.220	.336

TABLE 8 因子分析結果 - 日本人との関係 - (中国人留学生)

項目	因子1	因子2
【日本人評価認知】		
x9 日本人は中国人や中国文化に対し好意的である	.828	.176
x10 日本人は中国の言語や伝統文化を尊重している	.784	.166
x11 日本人は中国の歴史や文化に関心を持っている	.774	-.008
日本人は中国人を理解し尊敬している	.590	.332
【日本志向】		
x12 私にとって中国より日本の文化や習慣のほうが大切である	.172	.739
x13 私は中国人より日本人と一緒にいるほうが楽しい	.176	.680
x14 私は中国より日本の文化や歴史に関心がある	.221	.573
私は中国人より日本人と一緒に過ごす時間のほうが長い	.229	.571
私は中国人以外の人と友達になろうとは思わない	-.094	.524

TABLE 9 因子分析結果 - エスニック・アイデンティティ - (中国人留学生)

項目	因子1	因子2
【帰属感・愛着】		
x15 中国の文化や伝統に誇りを持っている	.978	-.207
x16 中国の文化や伝統が好きである	.572	.133
x17 中国人であることに幸せを感じる	.562	.272
自分が中国人であることを強く感じている	.540	.297
【積極的関与】		
x18 自分が中国人であることが自分の人生にどんな意味を持つか、はっきりわかっている	.498	.628
x19 中国人であることが自分の人生にどんな影響を与えるか深く考える	.467	.626
中国の歴史や伝統・習慣について知るために、たくさん時間を使っている	-.040	.312

TABLE10 因子分析結果 - 自尊心 - (中国人留学生)

項目	因子1	因子2	因子3
【否定的自尊心】			
全くだめな人間だと思ふことがある	.764	-.223	.134
敗北者だと思ふことがよくある	.723	-.021	-.316
いつも自分は役に立たない人間だと思ふ	.705	.030	-.113
自慢できるところがあまりない	.487	.092	-.317
【自己充足感】			
自分に満足している	-.032	.984	.135
自分はこれでいいと思ふ	-.047	.804	-.062
【肯定的自尊心】			
x20 <u>いろいろなよい素質を持っている</u>	-.319	.115	.785
x21 <u>少なくとも他の人と同じくらいには価値のある人間である</u>	-.094	.051	.549
x22 <u>物事を人とおなじくらいにはうまくやれる</u>	-.313	.149	.446
もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	-.094	-.110	.446

TABLE11 因子分析結果 - エスニック・アイデンティティの保持・継承 - (中国人留学生)

項目	因子1	因子2
【出自の継承】		
x23 <u>中国名を使い通名は使わない(中国名の使用)</u>	.799	.099
x24 <u>結婚相手は中国人がよい(結婚相手)</u>	.744	.001
中国籍がよい(国籍)	.507	.289
【伝統の保持】		
x25 <u>中国の年中行事や文化慣習を守り継承したい(伝統行事の保持)</u>	.096	.860
x26 <u>普段の食事は中華料理中心である(食事)</u>	.122	.795

モデルの解釈 統計パッケージ Amos 5 を用いて、あらかじめ設定した因果モデルをもとに共分散構造分析を行い、適合度指標が最も高くなるようにパスの追加・削除を行った。その際、日本人学生のモデルにおける「伝統の保持」の構成概念である「食事」、中国人留学生のモデルにおける「出自の継承」の構成概念である「結婚相手」の影響指標が、それぞれ統計的に有意でないため除外した上で、日本人学生については「伝統行事の保持」、中国人留学生については「中国名の使用」をモデルの構造的変数として分析に用いた。また、中国人留学生のモデルの中で「否定的経験」からのパスはいずれの観測変数に対しても 5%水準で有意でないためモデルから除外した。

以上の操作を経て最終的に得られたパスダイアグラムを FIGURE 3 及び FIGURE 4 に示す。適合度指標は、日本人学生については CFI=.925, PCFI=.738, RMSEA=.047, 中国人留学生については CFI=.971, PCFI=.771, RMSEA=.027であった。パス係数は標準化し、全て 5%水準で有意である。また、構

成概念から観測変数への影響指標は1つを除いて全て.40以上であり、適切に対応しているといえる。これらのことから、モデルはデータを十分に説明していると判断した。以下に各モデルについてパス係数を示しつつ考察を加える。

(1) 日本人学生 (FIGURE 3)

「肯定的自尊心」に対して「肯定的経験」「親の継承教育」から正のパス (.23, $p < .05$; .22, $p < .05$)、「否定的経験」から負のパス (-.33, $p < .01$) がみられた。「出自の継承」に対して「帰属感・愛着」から正のパス (.27, $p < .05$)、「肯定的経験」から負のパス (-.46, $p < .001$) がみられた。「伝統行事の保持」に対して「帰属感・愛着」から正のパス (.46, $p < .001$) がみられた。「帰属感・愛着」に対して「肯定的経験」「親の継承教育」から正のパス (.34, $p < .001$; .36, $p < .001$)、「否定的経験」から負のパス (-.30, $p < .01$) がみられた。「積極的関与」に対して「肯定的経験」「親の継承教育」から正のパス (.31, $p < .01$; .39, $p < .001$) がみられた。

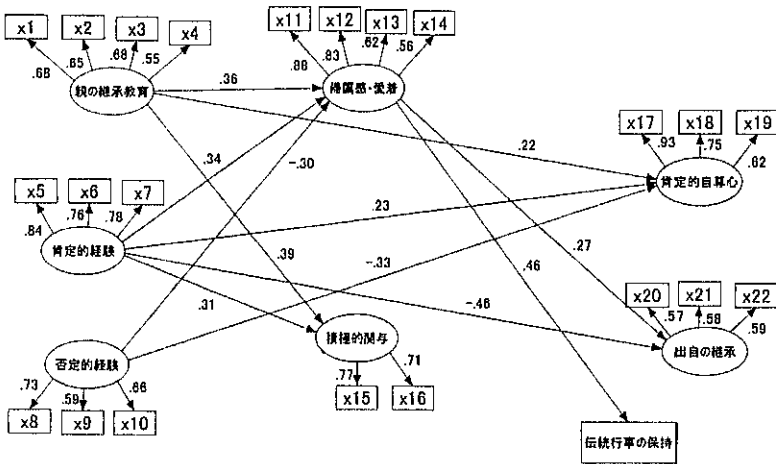
以上のことから、エスニック・アイデンティティを構成する「帰属感・愛着」及び「積極的関与」にとって、親がエスニック・アイデンティティを育てる教育が重要であると同時に、自民族に関して良い思いをする経験もまた強く影響することがわかる。親が日本の歴史や文化・言語を子どもに伝えようとする中で、子どもは自分が日本人であることや日本文化に誇りを持ち、安定したエスニック・アイデンティティを形成すると考えられる。また、異文化の人に日本文化を紹介したり、日本文化を高く評価されることもまた、日本人としてのエスニック・アイデンティティの強化につながっていくことが推察される。新井 (1995) のいうように、自分にとって異文化に属する人から日本文化を異文化として指摘されることが日本における日本人にとっては1つの異文化体験であり、そのような異文化体験が日本人としてのエスニック・アイデンティティ形成に寄与することを示している。また、原 (1995) は異文化接触によって日本人のアイデンティティが変わるのかどうかという問題提起をしているが、本研究の結果は、自民族に関わる経験を含めた広義の異文化接触によって、日本にいても日本人としてのエスニック・アイデンティティが触発されること、即ち外国人の日本への流入によって日本人のエスニック・アイデンティティが変化する可能性を示唆するものである。

こうして育まれた「帰属感・愛着」は「伝統行事の保持」や「出自の継承」にも強く影響を与えている。日本文化への愛着や日本人であることへの誇りは、

日本の伝統行事などを守っていこうという思いと同時に、自分が日本人であることを証明するものの1つとしての国籍や自分の出自の継承に関わる結婚相手及び自分の子どもの命名にも影響することがわかる。

一方、「出自の継承」は「肯定的経験」からは負の影響を受けている。このことは次のように解釈されよう。異文化の人たちとの楽しい交流は異文化に目を向けさせ、国際的人間を志向する気持ちを強めさせる。その結果、国籍や結婚相手などに関する日本へのこだわりが軽減されるのではないだろうか。

また、「肯定的自尊心」には「親の継承教育」や自民族に関わる経験が直接的に影響を与える一方で、エスニック・アイデンティティそのものは関与していないことが示された。日本人学生にとって、異文化の人たちに日本文化をほめられたり、日本人であることで楽しい思いをしたりすることは、ストレートに自尊心を高めるが、エスニック・アイデンティティを強く持っているからといって、それが自尊心に関わるものではないことがわかる。この結果は Phinney & Alipuria (1990) の、社会の中で多数派・主流派に属する集団成員の場合はエスニック・アイデンティティと自尊心とに強い関連が見られないという結果と一致する。日本における日本人学生にとってエスニック・アイデンティティは自己概念の一部を構成するものではあるものの、自己概念における重要性は低いことが推測される。



(CFI=.926, PCFI=.738, RMSEA=.047, n=165)
注 観測変数は煩雑さを避けるため省略した。

FIGURE 3 エスニック・アイデンティティのパスダイアグラム (日本人学生)

(2) 中国人留学生 (FIGURE 4)

「肯定的自尊心」に対して「帰属感・愛着」「積極的関与」から正のパス (.35, $p<.05$; .33, $p<.05$) がみられた。「帰属感・愛着」「積極的関与」に対して「肯定的経験」から正のパス (.64, $p<.05$; .63, $p<.05$) がみられた。「帰属感・愛着」「積極的関与」に対して「親の継承教育」から正のパス (.38, $p<.01$; .39, $p<.01$) がみられた。「帰属感・愛着」「積極的関与」「中国名の使用」「伝統の保持」に対して「日本志向」から負のパス (-.46, $p<.001$; -.31, $p<.05$; -.44, $p<.001$; -.63, $p<.01$) がみられた。「日本志向」に対して「日本人評価認知」から正のパス (.48, $p<.001$) がみられた。「日本人評価認知」に対して「肯定的経験」から正のパス (.42, $P<.05$) がみられた。

エスニック・アイデンティティの構成要素である「帰属感・愛着」と「積極的関与」は、「親の継承教育」と自民族に関する「肯定的経験」とによって強められることが示された。親が自民族に関する歴史や文化・言語を伝えようとする教育はエスニック・アイデンティティを育成する効果があり、また、日本での留学生活の中で自民族の文化に関して日本人と楽しく交流することにより、エスニック・アイデンティティが強化されることがわかる。

また、「肯定的自尊心」はエスニック・アイデンティティの影響を受けることが示された。中国人としてのエスニック・アイデンティティを明確に持つことは自尊心を強めることがわかる。異国での留学生活において中国人であることの意味を明瞭に意識し、自民族への強い帰属感を持っている者は、自分自身への信頼や肯定的意識を高めるのであろう。換言すれば、中国人としてのアイデンティティをしっかりと確立しておくことが、日本での留学生活に適應し、内面的安定を得るために不可欠であるといえよう。

一方で、「帰属感・愛着」と「積極的関与」は「日本志向」によって弱くなることが明らかになった。また、「日本志向」は「伝統の保持」や「中国名の使用」にも負の影響を与えていた。そして「日本志向」は「日本人評価認知」によって強められ、「日本人評価認知」は「肯定的経験」の影響を受けている。日本人との楽しい交流経験により、中国人留学生は日本人が中国を高く評価しているという認識を強める結果、日本人や日本文化への志向性が強まり、エスニック・アイデンティティやエスニック・アイデンティティの保持を弱体化させることが推測される。日本を留学先に選んだということから日本の文化や歴史に関心が高く、日本人との交流を求める意欲が強いのは当然であるが、それが行き過ぎると日本への同化傾向を強め、中国の伝統や生活習慣を日本風に変え

ようとすると同時に、中国人としてのアイデンティティが低下し、その結果、自尊心の喪失につながる事が推察される。

「肯定的経験」が直接的にはエスニック・アイデンティティを強める一方で、日本との関係の取り方が介在することでエスニック・アイデンティティを弱め、自尊心さえも低下させることが示されている。これは、主流派集団と自民族集団との関係でどちらにも同一化しない周辺の立場や主流派集団への同化的立場を取る者の自尊心が低いことを検証した Eyou, et al.(2000) の結果と一致している。留学生が日本に滞在するのは短期間とはいえ、日本への同化傾向が民族の誇りや自尊心を損なう可能性を示唆するものである。

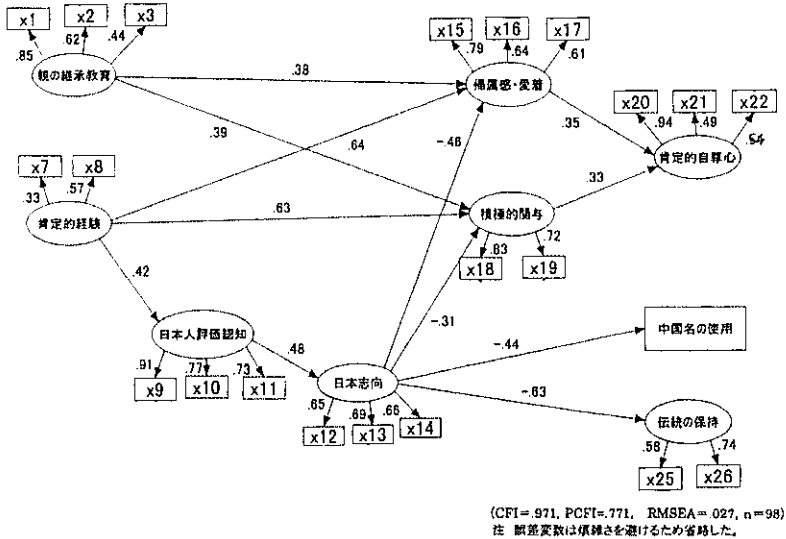


FIGURE 4 エスニック・アイデンティティのパスダイアグラム (中国人留学生)

まとめ

本研究では、日本人学生と中国人留学生とを対象に Phinney の考案した MEIM によってエスニック・アイデンティティの構成要素を検討した。その結果、エスニック・アイデンティティの構造は両者共に、他の文化圏の民族と共通していることが明らかになった。エスニック・アイデンティティに影響を与える諸要因と自尊心及びエスニック・アイデンティティの保持・継承との関連については両者共に、自民族に関する肯定的経験と親の継承教育が強く影響することが示された。また、日本人学生の場合は、エスニック・アイデンティティの保持・継承に対して、帰属感・愛着が正の影響を与える一方、自民族に関する肯定的経験は負の影響を与えること、エスニック・アイデンティティと自尊心との関連は殆どないことが示された。これに対し中国人留学生の場合は、エスニック・アイデンティティと自尊心とに密接な関連があること、自民族に関する肯定的経験が日本人との関係の取り方を介在することでエスニック・アイデンティティ及びその保持・継承に負の影響を与えることが明らかになった。

日本人学生の場合は日本即ち自国にいるのであるから、自分のエスニック・アイデンティティを意識することは殆どないと考えられる。しかし、近年の外国人流入の増加に伴い、外国人と日常的に接する経験が増え、その中で日本文化を客観的に捉える機会も多くなるであろう。そうした経験によって、日本にいても日本人としてのエスニック・アイデンティティは強められることが示された。しかし、自国にいるために、外国人からの差別や蔑視の対象となることは殆どなく、日本人であることの迷いや悩みといったエスニック・アイデンティティの危機にさらされることもない。つまり、自分が日本人であるがゆえに自尊心を傷つけられることもない代わりに、自分が日本人であることを強く意識することで自尊心を高めるわけでもない。換言するなら、自尊心を高く保つためにエスニック・アイデンティティを強める必要もない。そういう意味で、日本における日本人の場合、エスニック・アイデンティティが自己概念の中に占める重要性は低いと考えられる。

これに対し、中国人留学生の場合、エスニック・アイデンティティは自尊心を支える重要な基盤と考えられる。彼らは日本での留学生活の中で、日本人と日常的に接触し日本文化を受け容れつつ、一方でエスニック・アイデンティティを構築・維持しなければならない。常に自分が中国人であることを意識せざるを得ない状況の中で自尊心を高く保つためには、強いエスニック・アイデン

ティティが必要といえよう。しかし、日本文化の受容と中国人としてのエスニック・アイデンティティの維持とのバランスが崩れ、日本文化への妥協や同化傾向を強めるとき、エスニック・アイデンティティは放棄され、それが自尊心喪失につながっていくことが示されていた。このことを日本にいる他の留学生にも敷衍するならば、留学生のエスニック・アイデンティティを尊重し、留学生たちに安易かつ無神経な同化を求めることのないよう、日本人側の細かい配慮が重要であることが示唆されよう。

最後に、今後の課題について述べる。本研究では日本人学生と中国人留学生とを対照させることで、日本人学生のエスニック・アイデンティティをより明瞭に浮き彫りにすることを試みた。厳密な意味で両者を比較することは適当ではない。なぜなら一方は日本即ち自国にいる日本人学生であり、他方は異国にいる中国人留学生だからである。しかし、たとえそうした条件の違いはあるとしても、対照させることによってそれぞれの特徴が明瞭になるとすれば、多少の厳密さは損なわれても対照させる意義は大きいと考え、両者の対照を行った。今後本研究での欠陥を補うためには、海外に留学している日本人学生、中国における中国人学生を対象にした研究が必要であろう。また、現在日本に定住・永住する外国人が増加し、その子弟の母語・母文化・エスニック・アイデンティティの保持・継承の問題が深刻化してきている。そうした定住・永住外国人たちに関しても早急な調査・研究が必要であり、今後の課題としたい。

引用文献

- 新井郁男 1995 日本人の異文化接触とアイデンティティ 異文化間教育, 9, 37-51.
- DuBois, D.L., Burk-Braxton, C., Swenson, L.P., Tevendale, H.D., & Hardesty, J. L. 2002 Race and gender influences on adjustment in early adolescence: Investigation of an integrative model. *Child Development*, 73, 1573-1592.
- Eyou, M.L., Adair, V., & Dixon, R. 2000 Cultural identity and psychological adjustment of adolescent Chinese immigrants in New Zealand. *Journal of Adolescence*, 23, 531-543.
- Grossman, B., Wirt, R., & Davids, A. 1985 Self-esteem, ethnic identity and behavioral adjustment among Anglo and Chicano adolescents in West Texas. *Journal of Adolescence*, 8, 57-68.
- 原裕視 1995 異文化接触とアイデンティティ 異文化間教育, 9, 4-18.
- 井上孝代・伊藤武彦 1995 来日一年目の留学生の異文化適応と健康一質問紙調査と異文化感カウンセリングの事例から 異文化間教育, 9, 128-142.

- Lamborn, S.D., & Felbab, A.J. 2003 Applying ethnic equivalence and cultural values models to African-American teens' perceptions of parents. *Journal of Adolescence*, 26, 605-622.
- Martinez, R.O., & Dukes, R.L. 1997 The effects of ethnic identity, ethnicity, and gender on adolescent well-being. *Journal of Youth and Adolescence*, 26, 503-516.
- Parham, T.A., & Helms, J.E. 1985 Relation of racial identity attitudes to self-actualization and affective states of black students. *Journal of Counseling Psychology*, 32, 431-440.
- Phinney, J.S. 1992 The Multigroup Ethnic Identity Measure: A new scale for use with diverse groups. *Journal of Adolescent Research*, 7, 156-176.
- Phinney, J.S., & Alipuria, L.L. 1990 Ethnic identity in college students from four ethnic groups. *Journal of Adolescence*, 13, 171-183.
- Phinney, J.S., Romero, I., Nava, M., & Huang, D. 2001 The role of language, parents, and peers in ethnic identity among adolescents in immigrant families. *Journal of Youth and Adolescence*, 30, 135-153.
- 平直樹・川本ひとみ・慎栄根・中村俊哉 1995 在日朝鮮人青年にみる民族的アイデンティティの状況によるシフトについて 教育心理学研究, 43, 380-391.
- Tajfel, H. 1981 Human Groups and social categories: Studies in social psychology. New York: Cambridge University Press.
- Verkuyten, M. 2003 Positive and negative self-esteem among ethnic minority early adolescents: Social and cultural sources and threats. *Journal of Youth and Adolescence*, 32, 267-277.
- 山崎瑞紀 1994 アジア系就学生への対日イメージ形成に関する因果モデルの検討 教育心理学研究, 42, 442-447.
- 山崎瑞紀・平直樹・中村俊哉・横山剛 1997 アジア系留学生への対日態度及び対異文化態度形成におけるエスニシティの役割 教育心理学研究, 45, 119-128.
- 山本真理子・松井豊・山成由紀子 1982 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.